

2025年9月29日

大阪公立大学先端的都市研究拠点  
運営委員会 御中

大阪公立大学先端的都市研究拠点  
外部評価委員長 野口 定久

大阪公立大学先端的都市研究拠点  
2024年度外部評価報告書

次のとおり外部評価委員会として、大阪公立大学先端都市研究拠点の活動評価を実施したので、報告する。

記

**実施日** 2025年8月25日（月）

**委員** 野口定久（委員長） 日本福祉大学 名誉教授  
市古太郎 東京都立大学都市環境科学研究科 教授  
箱田 徹 神戸大学国際文化科学研究科 准教授

**参加者** 重松孝昌（センター所長）、野村恭代（副所長、教授）、全 泓奎（教授）、  
生田英輔（教授）、綱島洋之（特任講師）、杉山正晃（特任助教）、山本晃範（事務）、  
前田由佳（URA）

1. 研究活動について

- ・今後のセンターの研究活動として、人口問題、デジタル化、気候変動に係る課題に関する取り組みは不可欠であると考え。ケアの概念の拡張という視点は興味深く感じる。今後の展開に期待したい。
- ・今後、東アジアにおいても人口問題、気候変動に係る課題が顕在化すると予想され、現在のケアに関する研究と防災に関する研究の融合が不可欠と考えられるので、海外拠点の活動においてもこれらを念頭に置いた活動を期待したい。
- ・国際比較の視点を含めた大都市内部の格差、大都市と過疎地域の関係に関する研究の発展にも期待したい。
- ・国際学術誌への投稿論文数が少ないことは本拠点の継続的な課題である。公募型共同研究や先端都市特別研究員の公募の際に条件に付すなど、工夫・改善の余地があるものとする。

## 2. 人材育成について

- ・若い研究人材の研究環境整備は重要な論点である。これまでに採用した先端都市特別研究員の現状等について、もっと情報発信すべきであると考えている。これによって、今後の応募者数の増加にも繋がると考える。

## 3. 広報活動について

- ・ウェブサイトをはじめ、拠点のファイナンス情報と成果を明示・開示して、より積極的に活動のPRを実施すべきであると考えている。
- ・ウェブサイトについて言及すれば、過去の活動履歴がもっとわかるようにすべきと考える。現在、活動が活発である豊崎プラザの活動を始め、アピールすべきポイントを決めて強弱のある構成にしてはどうかと考える。

## 4. アウトリーチ活動について

- ・写真アーカイブ等の情報活用については、他機関との連携による活動の充実化を図ることや、これを活用した研究に対する研究公募を行うなどの工夫の余地があると考えている。

## 5. 拠点実施状況報告書について

- ・大学独自財源で運営している現状においてコストパフォーマンスは優れていると判断するが、令和6年度の実施状況報告を拝見すると、ここに記載されていること以外にも書くべき情報があると感じる。

以上